

寄稿

若さのヒケツはフォークダンス!

伴 敏子

矢板市内には、現在、フォークダンスサークルが二つあります。四十五年の歴史を持つ「矢板フォークダンスクラブ」と矢板市レクリエーション協会加盟団体の「サークル四季」です。私はこの二つのサークルはもろもろのこと、他市のサークルにも入り、踊っています。

■役立つ脳の活性化と体力維持

民族音楽に合わせ、手をつなぎあい、華やかな衣装を身にまとい踊る喜びや楽しさは、体験している者にしかわからないものかもしれません。



■ボランティア活動に参加 私たちは、この踊る楽しさや喜びを他の人も分かち合いたいと考えて、ボランティア活動にも取り組んでいます。もう何年になるでしょうか?年間十回、市内の高齢者福祉施設を訪問し、踊りを発表したり、一緒に踊ったりしています。

■青春の思い出のフォークダンス

「フォークダンス」と言うと、五十代以上の人は、「オクラホマ・ミキサー」「コロブチカ」を、甘酸っぱい青春の思い出と共に、懐かしく思い起こされるのでしょうか? 私たちが、毎回二時間の例会で踊っているフォークダンスは、十、十五曲。一年間に百五十曲以上になります。



四拍子だけでなく、七拍子・十一拍子と日本人にはなじまないものもあり、それを踊っていく体の動きは、若い頃そのままです。長く踊り続けていることは、体の若さと体力維持につながっています。

新しい踊りが次々と発表されます。それに挑戦していく私たちの頭はフル回転、脳の活性化に大いに役立っています。また踊りのリズムも三拍子・

■仲間を募集 仲間の年齢層は五十代から八十代。圧倒的に多いのは七十代です。しかし、例会をのぞいてみてください。そこで踊っている姿は、六十代、いや、五十代がほとんどと見間違ふような人ばかりです。皆「んもいかがですか? 何歳からでも始められます。初心者にもわかりやすく指導してくれます。私たちは、新しい仲間を増えることを待ち望んでいます。どうぞお出かけください。

岡目八目



矢板小学校・矢板中学校 外国語指導助手 (ALT) クリスタル・テドローさん (24歳)

アメリカ・インディアナ州出身、矢板市在住。来日後すぐに矢板に住んで約一年半になる。春休みには京都へ行きたいと思っている。また、富士山に登ったり、広島原爆ドームにも行ってみたい。趣味は映画鑑賞、バスケットボール、テニス、サッカー観戦。

■矢板市の印象

小学生の頃から日本に興味を持っていて、特に文化(具体的には伝統的な茶道、弓道など)に関心があり、日本に行きたいと思っていました。矢板市は自分の住んでいた街よりは大きいですが、全体の印象としてすごく似ています。東京みたいに混み合っていないし、にぎやかな街へ行きたかった訳ではなかったのですが、安心しました。夜空の星が眺められるような環境でよかったです。

■矢板で気に入っている場所

料理をするので道の駅で新鮮な野菜を買っています。農家やホートする環境は故郷と同じなので市に貢献するという意味でも。食べ物のお店では一代元のラーメン。歩いて行けるし、お店の人もやさしい。ガストのミートドリアも好きです。冬は体が温まりますね。

■日本に来て驚いたことや困ったこと 一番びっくりしたのは勤務先の学校の廊下が寒いこと。教室や職員室から出るととても寒いです。また教室で騒いでいる生徒がいると、アメ

リ力ではすぐに校長室に連れて行かれます。日本では授業中の教師が責任を持つので、大変だなと思いました。困ったことは、日本語を学んだのは大学の時一学期だけだったので、やはりコミュニケーションが難しくなりました。特に漢字は読み方も一つだけではないし、またいくつか組み合わせると意味が違ってきたりするので、本当に難しいですね。

休日には、友人とよくカフェに行きます。オノ・ヨーコの日本語の歌が大好きです。ジャンルとしてはロックが好きです。普段は静かなので、ダイナミックにロックを歌うとびっくりされます。

最初は生徒が困っている時、声を掛けようと思っても言葉が出てきませんでした。今は少し慣れてきました。まだまだ勉強中です。 ■英語に関して思うこと 小学校では生徒によつて違います。月に一、二回位の授業です。今後、小さいうちから英語を学べる機会がもっと増えることを望んでいます。

(R・K)

今年も「第四回兵庫 柵田の写真コンテスト」を開催します。5月9日に柵田オーナーの田植えが行われるので、シャッターチャンスです! 募集期限 9月25日(金) ※詳しくは広報やいた4月号をご覧ください。